



(城崎)

兵庫・見蔵岡遺跡

みくらおか

- 1 所在地 兵庫県城崎郡竹野町竹野字入谷ほか
- 2 調査期間 一九九四年(平6)四月～十二月
- 3 発掘機関 竹野町教育委員会
- 4 調査担当者 松井敬代
- 5 遺跡の種類 屋敷跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代中期末～一三世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

見蔵岡遺跡は兵庫県の最北端、猫崎半島のつけ根から南方約1kmに位置している。このあたりは旧但馬国美含郡竹野郷に属する。遺

跡は、竹野川の右岸にあたる字竹野・松本にまたがり、南西に開口する谷および丘陵先端に立地する。標高は五～一〇m前後を測る。調査は、昨年度より引き続き行ない、ほぼ終了した。調査の結果、中世の屋敷跡であることが判明した。

屋敷地を区画する遺構は検出していないが、約三二〇㎡の平坦面で二〇棟、六期にわたる建物群の変遷が認められた。屋敷は主屋と複数の付属屋とから成り立っており、その敷地内に屋敷墓と井戸、土坑などの遺構を検出した。遺構の概要は、昨年度の調査報告(本誌第一六号)を参照願いたい。

遺物の出土量はあまり多くなく、整理用コンテナに約五〇箱である。土器類では、土師器杯・皿・鍋、瓦質甕・火舎、黒色土器A類、東播系須恵器片口鉢、備前焼摺鉢、中国製青磁碗・皿、白磁片などが出土している。木製品の遺存が良好で、木簡のほか建築部材・下駄・横櫓・円板状木製品・漆碗・漆塗り容器などがある。その他の遺物には、土壙墓からまとまって出土した宋銭のほか、刀子・鉄釘・土錘などがある。

木簡は、今年度の調査で四点出土した。(1)は柱穴の埋土内から出土した。昨年度報告した付札木簡と同一の建物の別の柱穴である。(2)は隅丸方形の土坑内中層、礫の直下から、(3)(4)はそれぞれ木組井戸・石組井戸の最下層から出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 〔西カ〕
 〔 〕
 〔 〕
 〔 〕

93×23×16 065

(2) ・^{〔咄天カ〕}
 □□^{〔符録〕} 〇〇^{〔急々カ〕} 如律令

・井

263×34×5.5 051

(3) 〰〰

(521)×(22)×4.5 039

(4) □□

(113)×(28)×4 081

(1)は、円柱を半截し下端を尖らせたもので、両面に墨痕が認められるが、文字は解読できない。(2)は呪符木簡で、片面に「井」の文字がある。ややいびつだが上端は圭頭状に、下端は尖らせている。漆碗などとともに出土しており、投棄されたものと考えられる。(3)は斎串状の木札に文字を書き、半截して左半分を残したものである。「牛」偏の文字が書かれていたのであろうか。(4)は二文字以上が認められるが、判読はできない。当遺跡では、前年度出土分と合わせて五点の木簡の出土をみた。

なお、木簡の釈読に際しては、奈良国立文化財研究所寺崎保広・

渡辺晃宏両氏のご教示を得た。

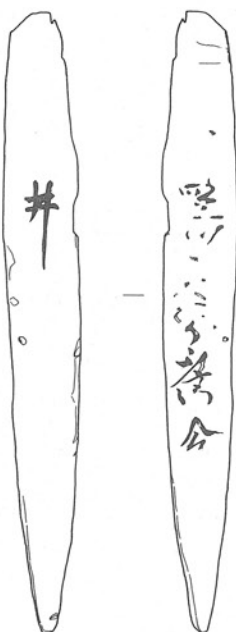
(松井敬代)



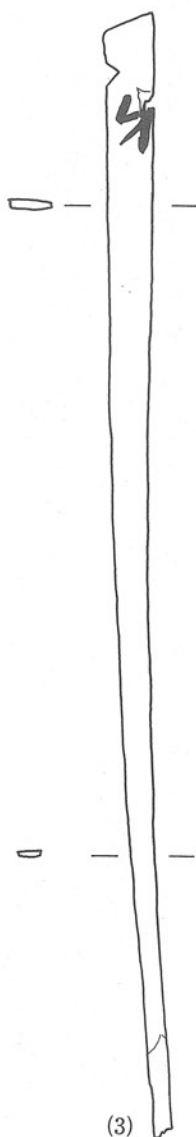
(1)



(4)



(2)



(3)